

### Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

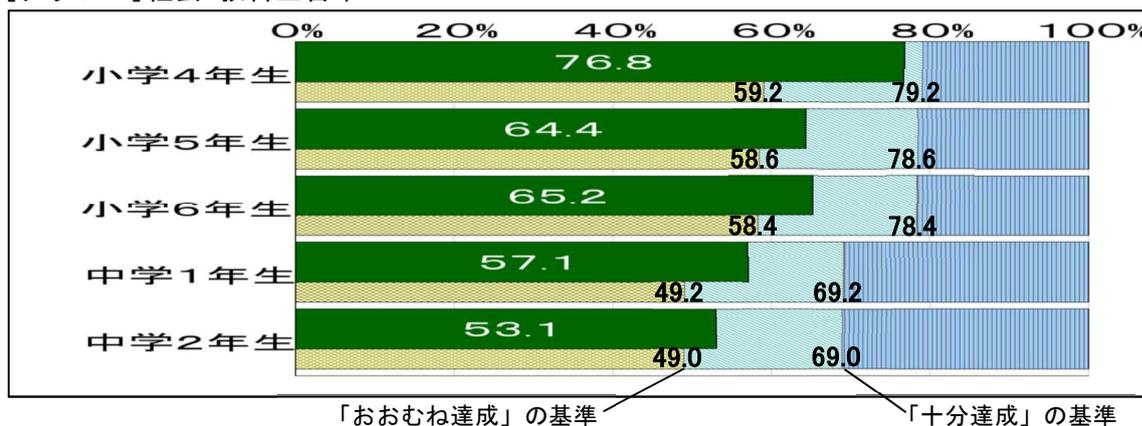
## 社 会

◎ 社会

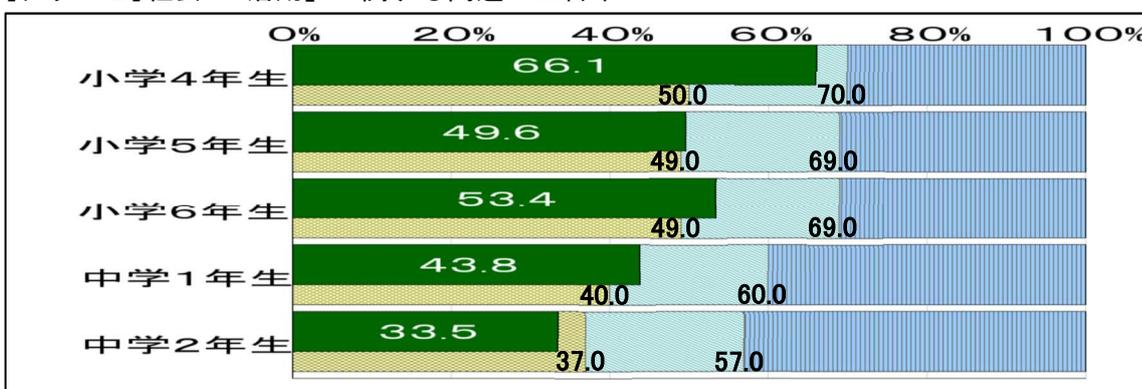
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。  
[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。  
[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生と小学6年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「観察・資料活用（資料活用）の技能」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「社会的な思考・判断・表現」については、中学2年生で、「社会的な事象についての知識・理解」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。  
[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学4年生の「地域の生産や販売」については、「十分達成」の基準を上回っている。小学5年生の「国土の様子」、中学2年生の「中世」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。  
[グラフ6～10]

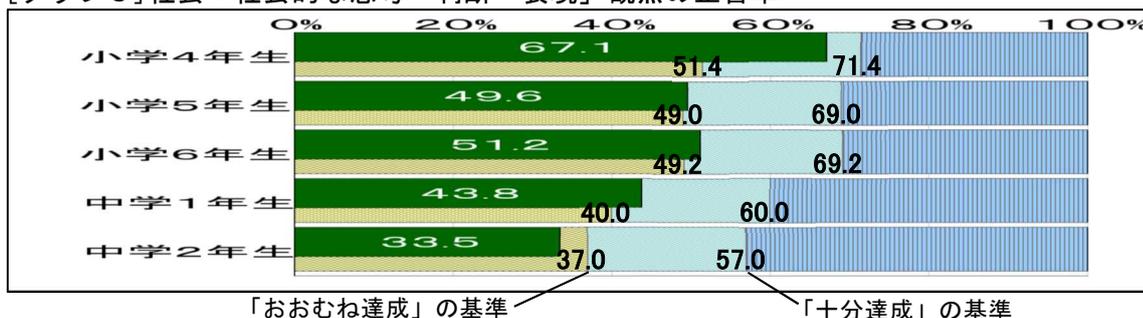
[グラフ1]社会 教科正答率



[グラフ2]社会 「活用」に関する問題の正答率



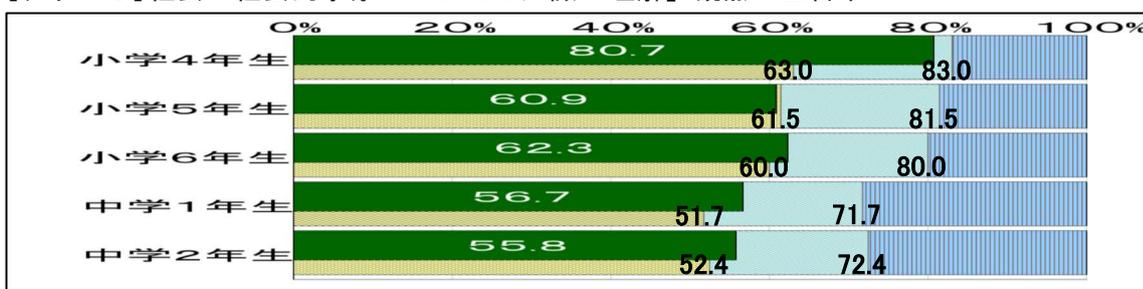
[グラフ3]社会「社会的な思考・判断・表現」観点の正答率



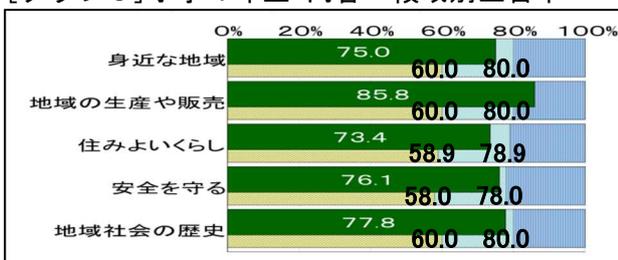
[グラフ4]社会「観察・資料活用（資料活用）の技能」観点の正答率



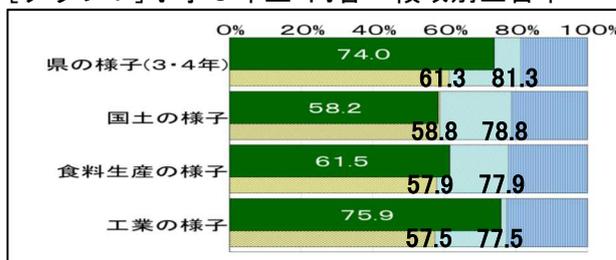
[グラフ5]社会「社会的事象についての知識・理解」観点の正答率



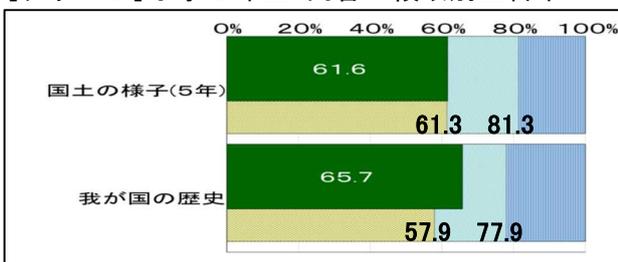
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



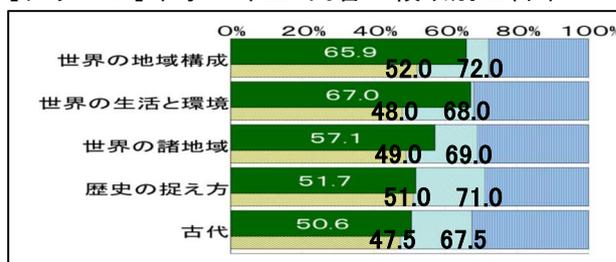
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ7]の「県の様子(3・4年)」という表記は、第3・4学年で学習する内容であることを示している。

※ [グラフ8]の「国土の様子(5年)」という表記は、第5学年で学習する内容であることを示している。

## (2) 成果と課題及び指導改善のポイント

### 小学校社会（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

#### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 県の様子や地域社会の歴史に関する知識が身に付いている。  
(小学4年生<sup>6</sup>(1)、小学5年生<sup>1</sup>(1))
- ◇ 資料から必要な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。  
(小学4年生<sup>2</sup>(1)、小学5年生<sup>5</sup>(3)<sup>7</sup>(1)、小学6年生<sup>3</sup>(4)<sup>5</sup>(1))
- ◆ 1 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識の習得に課題が見られる。  
(小学5年生<sup>2</sup>(3)<sup>6</sup>(3)、小学6年生<sup>1</sup>(4)<sup>6</sup>(2)(3)<sup>7</sup>(3))
- ◆ 2 複数の資料を関連付けて読み取ったり、調べたことをまとめたりすることに課題が見られる。  
(小学4年生<sup>6</sup>(2)、小学校5年生<sup>3</sup>(3)<sup>4</sup>(1))
- ◆ 3 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られる。  
(小学5年生<sup>5</sup>(4)<sup>6</sup>(2)、小学校6年生<sup>3</sup>(3)<sup>5</sup>(3))

#### 指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識を習得させるためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - グループや学級全体で話し合う際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉で説明したりできるように指導を行っていますか。
  - 国土の様子を図示したり、人物が行ったことをワークシートにまとめたりする際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉でまとめたりすることができるように指導を行っていますか。
- ◆ 2 複数の資料を関連付けて読み取ったり、調べたことをまとめたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - 複数の資料を提示する際は、資料を一つずつ提示したり、資料の一部を隠して提示したりするなど、資料提示の工夫をしていますか。
  - 「この資料からどのようなことがわかりますか?」「(複数の資料を比較して)共通する(違う)ことは何ですか?」というような発問をして、地図やグラフなどの資料から必要な情報を読み取ったり、比較したりすることができるように指導していますか。
  - カードや白地図、年表などに、調べたことをまとめる際に、小見出しを付けたり、分布や時間の経過で整理したりするように指導を行っていますか。
- ◆ 3 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現する力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - 「なぜ~だろうか?」「どのように~だろうか?」というような発問をして、自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を設定していますか。
  - 児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導していますか。
  - 児童の説明が不足しているときに、「なぜ~だったら~になるのですか?」といったような問い返しの発問をしていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください! → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

## 誤答分析を基にした指導改善（小学校社会科）

◆ 3 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られる。

《小学校5年生》

### ■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問6 (2)	資料を基に、輸入に依存することの問題点について説明することができる。 (記述式)	天候不良のため、アメリカの大豆が被害を受けたことにより、日本が困る理由について、2つのグラフを基に説明する。	44.9	7.1	70.0	50.0

#### 【正答の条件】

次の①、②、③の条件を全て満たしているものを正答とする。

- ①「自給率」「輸入」の2つの言葉を使って記述していること。
- ②日本は大豆の自給率が低いことを記述していること。
- ③アメリカからの輸入量が多いことや、アメリカからの輸入が止まったり、輸入量が減ったりした場合のことを記述していること。

### ■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「日本は大豆の自給率が低い」ということは記述することができているが、「アメリカが日本に輸入しているから」や「輸入の量が増えた」のように、「アメリカからの輸入量が多いことやアメリカからの輸入が止まったり、輸入量が減ったりした場合のこと」を記述することができていない。
- ・「アメリカからの輸入量が多いことやアメリカからの輸入が止まったり、輸入量が減ったりした場合のこと」は記述することができているが、「自給率が上がっていく」「輸入ができないと自給率が減ってしまうから」のように、「日本は大豆の自給率が低い」ことを記述することができていない。
- ・「自給率」「輸入」の2つの言葉を使って記述することができているが、「自給率が減ってくると輸入できる物がなくなる」「自給率が減ってきたので、輸入の量が増えた」のように、2つの資料を関連付けることができていない。

### ■ 改善・充実に向けて

1つの資料から情報を読み取ることはできていますが、複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・「アメリカで天候が悪く、大豆が被害を受けたらなぜ日本が困るのですか」というような発問をして、自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を設定する。
- ・児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導する。その際、「自給率」や「輸入」の用語を使わせたり、用語の意味について確認をしたりする。
- ・「アメリカの大豆が被害を受けたら、なぜ日本が困るのですか？」と発問した際、「日本は大豆の自給率が低いから」といったように児童の説明が不足しているときに、「大豆の自給率が低いことと、アメリカの大豆が被害を受けることが、日本にとって、どのような関係があるのですか」と問い返しの発問をする。このことで、「アメリカから多くの大豆を輸入しているため、輸入ができなくなると困る」という、輸入に依存している問題点について考えさせるようにする。

《小学校6年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5 (4)	参勤交代の制度を定めた理由 について説明することができる。 (記述式)	大名に参勤交代の制度を定 めた理由を、徳川家光の言葉 や「佐賀藩が参勤交代に使っ たお金」のグラフを基に説明 する。	44.2	9.0	70.0	50.0

【正答の条件】

次の①、②の条件を全て満たしているものを正答とする。

①「費用」「力」という2つの言葉を使って記述していること。

②多くの費用を使わせることで、大名の力を弱めるという内容を記述していること。

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「費用」という言葉を使って記述することはできているが、「費用があまりかからなかった」や「費用をもらっている」などのように、参勤交代に掛かった費用が各藩の財政を圧迫していたことをグラフから読み取ることができていない。
- ・「費用」「力」という言葉を使って記述することができているが、「新しい兵を集めて力を強めたり、費用をもらったりしている」や「たくさん費用を使って、力を見せつけるため」などのように、2つの資料を関連付けることができていない。

■ 改善・充実に向けて

1つの資料から情報を読み取ることはできていますが、複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・参勤交代とは、どのような政策なのかを調べさせるだけでなく、「なぜ、参勤交代の制度を定めたのか？」というような発問をして、参勤交代の制度を定めた理由について、自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動を設定する。
- ・児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導する。その際、「費用」や「幕府」「大名」などの用語を使わせたり、用語の意味について確認したりする。
- ・「なぜ、参勤交代の制度を定めたのか？」と発問をした際、児童が、「費用をたくさん使わせるため」など、説明が不足しているときに、「なぜ、費用を使わせることが幕府にとって都合がよいのですか？」といったような問い返しの発問をする。このことで、大名の力を弱めるという参勤交代の制度を定めた理由まで考えさせるようにする。

## (2) 成果と課題及び指導改善のポイント

### 中学校社会（中学１年生、中学２年生）

#### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 地理的分野において、社会的事象に関する知識が身に付いている。  
(中学１年生 $\boxed{1}$ ( $\boxed{1}$ ) $\boxed{2}$ ( $\boxed{3}$ )、中学２年生 $\boxed{1}$ ( $\boxed{1}$ ) $\boxed{2}$ ( $\boxed{2}$ ) $\boxed{3}$ ( $\boxed{1}$ ) $\boxed{3}$ )
- ◇ 資料から適切な情報を読み取る技能が身に付いている。  
(中学１年生 $\boxed{1}$ ( $\boxed{5}$ ) $\boxed{2}$ ( $\boxed{5}$ ) $\boxed{3}$ ( $\boxed{2}$ ) $\boxed{5}$ ( $\boxed{1}$ ) $\textcircled{1}$ 、中学２年生 $\boxed{3}$ ( $\boxed{4}$ ) $\boxed{4}$ ( $\boxed{3}$ )
- ◆ 1 地理的分野において、資料に示された都市の緯度と経度を読み取ったり、地図から時差を求めたりすることに課題が見られる。  
(中学１年生 $\boxed{1}$ ( $\boxed{4}$ )、中学２年生 $\boxed{2}$ ( $\boxed{1}$ )
- ◆ 2 歴史的分野において、社会的事象に関する知識の理解に課題が見られる。  
(中学１年生 $\boxed{4}$ ( $\boxed{1}$ ) $\boxed{4}$ ( $\boxed{6}$ ) $\boxed{2}$ ( $\boxed{3}$ )、中学校２年生 $\boxed{4}$ ( $\boxed{1}$ ) $\boxed{2}$ ( $\boxed{4}$ ) $\boxed{5}$ ( $\boxed{2}$ ) $\boxed{3}$ ( $\boxed{4}$ ) $\boxed{6}$ ( $\boxed{3}$ ) $\boxed{4}$ ( $\textcircled{1}$ )
- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや、社会的事象の意味や意義を解釈して説明することに課題が見られる。  
(中学１年生 $\boxed{2}$ ( $\boxed{4}$ ) $\boxed{3}$ ( $\boxed{5}$ )、中学２年生 $\boxed{2}$ ( $\boxed{4}$ ) $\boxed{3}$ ( $\boxed{5}$ ) $\boxed{4}$ ( $\boxed{5}$ )

#### 指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 緯度と経度を使って位置を読み取ったり、時差を求めたりする力を身に付けることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です
  - 地球儀や世界地図を用いて、本初子午線や赤道の位置を明示することで緯度や経度の基準を示したり、ある地点を例に取り上げ、「北緯○度、東経○度」などのように緯度と経度の組み合わせで位置を表したりする活動を位置付けていますか。
  - 時差については、単に時差を計算させるような指導だけでなく、時差のある海外の様子を衛星中継する映像を活用したり、国際電話で海外にいる人と話をする場面などを想定し、実際の生活場面と結び付けたりしながら指導していますか。
- ◆ 2 社会的事象に関する知識を習得することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - 一問一答形式の小テストや重要語句を機械的・表面的に記憶しているかを確認するような発問を行うだけでなく、生徒が社会的事象の意味を考えたり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするような発問を行っていますか。
  - 単元や授業のまとめをする際に、生徒が、本単元や本時で学習したことや既習事項を活用して、自分の言葉で説明したり、まとめたりする活動を設定していますか。
- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明したり、社会的事象の意味や意義を解釈して説明したりする力を育成するためには、授業において、課題を追究したり解決したりする活動を位置付け、学習を進めていくことが大切です。
  - 生徒が疑問や気付きをもてるように、社会的事象に関する具体的な事実を示す写真やグラフなどの資料提示の仕方を工夫するなどして、生徒の興味・関心を高めていますか。
  - 生徒の疑問や気付きから「どのように（な）～?」「なぜ～?」など、単元を通した課題、または、本時の課題を設定していますか。
  - 課題を追究したり解決したりする活動の中で、生徒が資料から読み取った情報や社会的事象について調べたことや考えたことを基に、簡潔な文章にまとめたり、キーワードを使って整理したりできるような場面を設定していますか。
  - 生徒が社会的事象について説明したり、自分の考えについて適切に説明したりする際に、問い返しを行うなどして、そのように考えた根拠を示したり、そのように考えた理由を述べたりすることができるように指導していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

## 誤答分析を基にした指導改善（中学校社会科）

- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや、社会的事象の意味や意義を解釈して説明することに課題が見られる。

《中学校 1 年生》

### ■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3 (5)	資料を基に、インドに外国企業が進出している理由を説明することができる。 (記述式)	インドに日本などの外国企業が進出している理由について、人口の移り変わりの資料と賃金の比較を示した資料を基に、条件に合わせて説明する。	36.9	16.2	60.0	40.0

#### 【正答の条件】

次の①の条件を満たし、さらに理由として、②、③の内容を記述しているものを正答とする。

- ①「労働力」という語句を使って記述していること。
- ②インドの人口が増加してきていること、または、インドの人口が多いこと。
- ③インドの賃金が日本、または、中国よりも安いこと。

### ■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「労働力」という語句を使って記述することができているが、「労働力はあるけれど、インドには働く場所がない」や「労働力の効率がいい」のように「インドの人口が増加してきていること、または、インドの人口が多いこと」や「インドの賃金が日本、または、中国よりも安いこと」について読み取ることができていない。
- ・「労働力」という語句を使って、「インドの賃金が日本、または、中国よりも安いこと」について読み取ることができているが、「労働力が高いし、賃金も安いからインドに進出しやすい」のように「インドの人口が増加してきていること、または、インドの人口が多いこと」について読み取ることができていない。
- ・「労働力」という語句を使って、「インドの人口が増加してきていること、または、インドの人口が多いこと」について読み取ることができているが、「急激に人口が増え、労働力が上がった」のように「インドの賃金が日本、または、中国よりも安いこと」について読み取ることができていない。
- ・「安い賃金で多くの人を雇うことができる」のように「労働力」という語句を使って記述することができていない。

※改善・充実に向けては、中学 2 年生と併せて P 35 に記載している。

《中学校2年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3 (5)	資料を基に、高速道路の延長による効果を説明することができる。  (記述式)	高速道路の距離の延長による効果について、高速道路の開通による所要時間の変化を示した資料と長崎県産「さば」の東京卸売市場での取引価格と高速道路の整備率を示した資料を基に、条件に合わせて説明する。	33.9	12.8	55.0	35.0

【正答の条件】

次の①、②の内容を記述しているものを正答とする。

- ①移動に掛かる時間が短くなったこと。
- ②長崎県産の「さば」の価格が高くなっていること。

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「短時間で移動ができる」や「高速道路を利用した方が、所要時間が短くなる」のように「移動に掛かる時間が短くなったこと」について読み取ることができているが、「長崎県産の「さば」の価格が高くなっていること」について読み取ることができていない。
- ・「新鮮なものを届けることができる」や「新鮮な状態で出荷できる」のように、鮮度のことについて記述することができているが、「移動に掛かる時間が短くなったこと」や「長崎県産の「さば」の価格が高くなっていること」について読み取ることができていない。

■ 改善・充実に向けて

1つの資料からの読み取りはできていますが、複数の資料から読み取った内容を基に条件に合わせて考えたり、関連付けて考えたりすることに課題が見られます。これらの課題を解決するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・資料を提示する際に、複数の資料を提示し対比させたり、時間の経過に着目させるために資料を提示する順番を工夫したりするなどして、「資料からどのような事実が読み取れるのか?」「読み取った内容を関連付けるとどのようなことが言えるのか?」などを考える活動を位置付ける。
- ・「なぜ、日本などの外国企業がインドに進出しているのだろうか?」「高速道路の距離が延長されることによりどのような影響があるのだろうか?」など単元を通した課題、または本時の課題を設定し、課題を追究したり解決したりする活動を位置付ける。
- ・生徒が資料から読み取った情報や社会的事象について調べたことや考えたことを、ペアやグループ、または、全体で話し合う場面やまとめる際に、根拠や理由を示して分かりやすく説明したり、簡潔な文章にまとめたり、キーワードを使って整理したりできるような活動を位置付ける。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

〔表1〕 小学4年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,489	76.8	2.2	79.2	59.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	身近な地域	4	75.0	0.9	80.0	60.0	
	地域の生産や販売	4	85.8	1.4	80.0	60.0	◎
	住みよいくらし	9	73.4	2.1	78.9	58.9	
	安全を守る	5	76.1	2.9	78.0	58.0	
	地域社会の歴史	4	77.8	3.3	80.0	60.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	7	67.1	3.8	71.4	51.4	
	②技能	9	79.9	1.7	81.1	61.1	
	③知識・理解	10	80.7	1.4	83.0	63.0	
問題形式	選択式	11	86.0	0.9	82.7	62.7	◎
	短答式	8	72.5	2.5	81.3	61.3	
	記述式	7	67.1	3.8	71.4	51.4	
活用	「活用」に関する問題	5	66.1	3.6	70.0	50.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用		期待正答率		到達状況		
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題	県正答率		県無解答率	十分達成
1	(1)ア 主な地図記号を理解している(郵便局)	○					○			○			96.8	0.1	85	65	◎
1	(1)イ 主な地図記号を理解している(畑)	○					○			○			67.9	1.0	85	65	
1	(2) 地図から、必要な情報を読み取ることができる	○					○			○			87.3	0.1	80	60	◎
1	(3) 地図から必要な情報を読み取り、条件に合わせて説明することができる	○					○			○	○		47.7	2.4	70	50	▼
2	(1)① 資料から、販売の仕事に見られる工夫や努力を読み取ることができる	○					○			○			95.4	0.1	85	65	◎
2	(1)② 資料から、販売の仕事に見られる工夫や努力を読み取ることができる	○					○			○			96.8	0.2	85	65	◎
2	(2) 資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる	○					○			○			82.4	2.3	80	60	◎
2	(3) 販売の仕事に見られる工夫について説明することができる	○					○			○	○		68.6	2.9	70	50	
3	(1) 資料から、ごみの出し方を読み取ることができる	○					○			○			82.6	0.2	80	60	◎
3	(2) 清掃工場の仕組みを理解している(クレーン・中央制御室)	○					○			○			83.1	0.2	85	65	
3	(3) 資源ゴミを再利用するリサイクルについて理解している	○					○			○			70.5	3.5	80	60	
3	(4) ごみを減らす工夫について説明することができる	○					○			○	○		72.0	3.1	70	50	◎
4	(1) 資料から、水の使用量の変化を読み取ることができる	○					○			○			63.2	2.7	80	60	
4	(2) 水道水が家や学校に送られるまでの流れを理解している	○					○			○			66.4	3.0	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式				記述式	十分達成	
4	(3)	浄水場の働きについて理解している	○				○		○			75.2	0.8	80	60	
4	(4)	安全できれいな水がつけられたあと、検査が行われ、水道管（配水管）を通して、家庭などに送られていることを理解している	○				○		○			78.4	1.2	80	60	
4	(5)	家庭でできる水の再利用の方法を考えることができる	○				○			○		69.5	4.6	75	55	
5	(1)	資料から、交通事故発生件数の変化と原因別の件数を読み取ることができる		○			○			○		79.3	1.9	80	60	
5	(2)	人々の安全を守る警察の仕事を理解している		○			○		○			84.4	1.2	85	65	
5	(3)	資料から、交通事故や事件が発生した際の通信指令室の働きを読み取ることができる		○			○		○			78.3	2.2	80	60	
5	(4)	地域の人たちが登下校の時間に通学路に立つことが、子どもたちの安全を守るための取り組みになる理由について考えることができる		○			○			○		70.2	4.2	75	55	
5	(5)	資料を基に、交通事故を防ぐための工夫について説明することができる		○			○			○	○	68.5	5.3	70	50	
6	(1)①	古くから残る暮らしに関わる道具を理解している（そろばん）			○			○	○			97.0	1.5	85	65	◎
6	(1)②	古くから残る暮らしに関わる道具を理解している（アイロン）			○			○	○			87.1	1.7	85	65	◎
6	(2)	昔の道具について調べたことを、カードにまとめることができる			○			○	○			53.4	5.5	80	60	▼
6	(3)	昔と今の道具を示した資料を基に、人々の暮らしの変化について説明することができる			○			○		○	○	73.5	4.4	70	50	◎

[表2] 小学5年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,424	64.4	2.8	78.6	58.6	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	県の様子(3・4年)	4	74.0	0.5	81.3	61.3	
	国土の様子	8	58.2	3.2	78.8	58.8	▼
	食料生産の様子	12	61.5	3.0	77.9	57.9	
	工業の様子	4	75.9	3.7	77.5	57.5	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	49.6	6.6	69.0	49.0	
	②技能	13	72.8	1.3	80.0	60.0	
	③知識・理解	10	60.9	2.9	81.5	61.5	▼
問題形式	選択式	16	71.0	1.0	80.0	60.0	
	短答式	7	59.9	4.3	82.1	62.1	▼
	記述式	5	49.6	6.6	69.0	49.0	
活用	「活用」に関する問題	5	49.6	6.6	69.0	49.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解					十分達成	おおむね達成	
1	(1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している	○				○		○		87.5	1.4	85	65	◎
1	(2)①	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(玄界灘)	○				○		○		68.7	0.2	80	60	
1	(2)②	地図から、県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(脊振山地)	○				○		○		81.4	0.2	80	60	◎
1	(3)	都道府県の名称と位置を理解している(和歌山県・三重県)	○				○		○		58.5	0.3	80	60	▼
2	(1)	世界の大陸と海洋の名称と位置を理解している(インド洋・南アメリカ大陸)	○				○		○		74.7	0.1	80	60	
2	(2)	地図から、日本の位置や東端の島を読み取ることができる(ユーラシア大陸・南鳥島)	○				○		○		64.3	1.0	80	60	
2	(3)	日本が抱える領土問題を理解している(竹島)	○				○		○		15.6	9.6	80	60	▼
2	(4)	資料を基に、沖ノ鳥島において工事が行われた理由について説明することができる	○				○		○	○	46.6	7.0	65	45	
3	(1)①	日本の気候の特色について理解している(四季)	○				○		○		52.1	4.9	85	65	▼
3	(1)②	日本の気候の特色について理解している(台風)	○				○		○		91.2	1.6	85	65	◎
3	(2)	資料から、福井市の気温と降水量を読み取ることができる	○				○		○		66.9	0.6	80	60	
3	(3)	資料から、日本海側の降水量の特徴を読み取ることができる	○				○		○		54.6	0.7	75	55	▼
4	(1)	資料から、米作りが盛んな地域の特色を読み取ることができる	○				○		○		53.2	0.5	80	60	▼
4	(2)	米作りの1年間の流れを理解している	○				○		○		64.8	0.3	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	(3)	資料から、米作りの工夫を読み取ることができる	○					○				86.6	0.7	80	60	◎
4	(4)	米の保管から出荷までの流れを理解している	○					○				45.9	1.1	80	60	▼
4	(5)	資料を基に、日本の農業が抱える問題点について説明することができる	○					○		○	○	54.4	4.9	70	50	
5	(1)	日本の近海で漁業が盛んである理由を理解している	○					○				66.2	0.9	80	60	
5	(2)	資料から、日本の漁業別生産量の変化を読み取ることができる	○					○		○		60.1	2.1	80	60	
5	(3)	資料を基に、漁港で行われている仕事を読み取ることができる	○					○				93.3	0.8	80	60	◎
5	(4)	資料を基に、栽培漁業で、魚をある程度の大きさまで育ててから放流する理由について説明することができる	○					○		○	○	33.1	6.8	70	50	▼
6	(1)	資料から、日本の食料自給率を読み取ることができる	○					○		○		83.6	2.2	85	65	
6	(2)	資料を基に、輸入に依存することの問題点について説明することができる	○					○		○	○	44.9	7.1	70	50	▼
6	(3)	住んでいる地域やそのそばで生産されたものを消費することが地産地消であることを理解している	○					○		○		52.6	8.4	80	60	▼
7	(1)	資料から、自動車の生産過程を読み取ることができる	○					○				88.3	1.6	80	60	◎
7	(2)	資料を基に、自動車工場と関連工場の関係から考えられる問題点について説明することができる	○					○		○	○	69.2	7.3	70	50	
7	(3)	資料から、自動車の現地生産の現状を読み取ることができる	○					○		○		64.0	3.2	80	60	
7	(4)	資料から、交通事故を減らすための工夫を読み取ることができる	○					○		○		82.2	2.8	80	60	◎

[表3] 小学6年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,354	65.2	3.7	78.4	58.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	国土の様子(5年)	4	61.6	3.0	81.3	61.3	
	我が国の歴史	24	65.7	3.8	77.9	57.9	
評価の観点	①思考・判断・表現	6	51.2	6.3	69.2	49.2	
	②技能	8	80.6	0.4	82.5	62.5	
	③知識・理解	14	62.3	4.4	80.0	60.0	
問題形式	選択式	14	76.5	0.2	81.1	61.1	
	短答式	8	55.7	7.8	80.6	60.6	▼
	記述式	6	51.2	6.3	69.2	49.2	
活用	「活用」に関する問題	5	53.4	6.3	69.0	49.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式			「活用」に関する問題	十分達成	
1	(1) 三海洋の名称と位置を理解している	○			○		○			77.0	0.0	85	65	
1	(2) 資料から、我が国の位置を読み取ることができる	○			○		○			61.2	1.6	80	60	
1	(3) 資料から、日本の気候の特色を読み取ることができる	○			○		○			76.0	0.2	80	60	
1	(4) 北方領土を理解している	○			○		○			32.1	10.2	80	60	▼
2	(1) 米作りが始まったことによる人々の生活の変化を理解している	○			○		○			52.9	0.1	80	60	▼
2	(2) 資料から、米作りに関する道具を読み取ることができる	○			○		○			83.2	0.0	80	60	◎
2	(3) 古墳時代の国の様子について理解している	○			○		○			75.2	0.2	80	60	
3	(1) 聖徳太子が行った政策を理解している	○			○		○			69.0	0.1	80	60	
3	(2) 聖武天皇が仏教の力によって、世の中を安定させようとしたことを理解している	○			○		○			80.6	1.7	80	60	◎
3	(3) 資料を基に、大陸の文化が日本にどのようにして入ってきたかを説明することができる	○			○		○	○		39.9	7.4	65	45	▼
3	(4) 大和絵に描かれているのが貴族であることを読み取ることができる	○			○		○			90.6	0.1	85	65	◎
4	(1) 鎌倉幕府を開き、征夷大将軍に任命された源頼朝を理解している	○			○		○			49.3	9.5	80	60	▼
4	(2) 資料を基に、承久の乱の後、武士(御家人)が幕府(将軍)から領地をもらった理由について説明することができる	○			○		○	○		68.0	5.3	70	50	
4	(3) 資料から、室町時代の文化を読み取ることができる	○			○		○			84.9	0.1	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		我が国の歴史 国土の様子(5年)				①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(1)	資料から、長篠の戦いで織田・徳川軍と武田軍の戦い方の違いを読み取ることができる	○						○			90.9	0.9	85	65	◎
5	(2)	資料を基に、刀狩令の目的について、説明することができる	○							○		40.2	6.2	70	50	▼
5	(3)	参勤交代の制度を定めた理由について説明することができる	○							○	○	44.2	9.0	70	50	▼
5	(4)	江戸時代の文化や学問についての資料を選ぶことができる	○						○			78.3	0.1	85	65	
6	(1)	明治政府の政策について理解している	○						○			90.3	0.1	80	60	◎
6	(2)	明治政府が行った、経済を発展させ、強い軍隊をもつ政策が富国強兵であることを理解している	○							○		46.0	13.9	80	60	▼
6	(3)	西洋の文化が取り入れられ、社会が変化したことが文明開化であることを理解している	○							○		37.8	12.7	80	60	▼
6	(4)	資料を基に、小学校に通う児童の割合が増えた理由について説明することができる	○							○	○	49.7	5.8	70	50	▼
7	(1)	関税自主権を理解している	○						○			75.0	0.2	75	55	◎
7	(2)	資料を基に、ノルマントン号事件で船長が軽い罪だった理由を説明することができる	○							○	○	65.1	4.0	70	50	
7	(3)	大日本帝国憲法の制定に尽力し、初代内閣総理大臣になった人物が伊藤博文であることを理解している	○							○		47.7	11.6	80	60	▼
7	(4)	大日本帝国憲法を理解している	○						○			71.6	0.5	80	60	
8	(1)	資料から、戦時中の国民の生活の様子を読み取ることができる	○						○			79.5	0.5	80	60	
8	(2)	終戦までの出来事を理解している	○						○			68.0	0.5	80	60	

[表4] 中学1年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,791	57.1	6.9	69.2	49.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の地域構成	5	65.9	1.3	72.0	52.0	
	世界の生活と環境	5	67.0	3.8	68.0	48.0	
	世界の諸地域	5	57.1	6.8	69.0	49.0	
	歴史の捉え方	5	51.7	9.6	71.0	51.0	
	古代	10	50.6	9.8	67.5	47.5	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	43.8	12.1	60.0	40.0	
	②技能	7	67.7	1.1	69.3	49.3	
	③知識・理解	18	56.7	7.6	71.7	51.7	
問題形式	選択式	12	64.9	0.9	70.0	50.0	
	短答式	13	55.1	10.3	71.9	51.9	
	記述式	5	43.8	12.1	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	5	43.8	12.1	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点	問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代						①思考・判断・表現	②技能	
1	(1) ヨーロッパ州の位置と名称を理解している	○						○		75.1	4.7	75	55	◎
1	(2) 地図上での北半球と南半球を区分している赤道の位置を理解している	○						○		57.0	0.3	70	50	
1	(3) 陸地と海洋の面積の割合を理解している	○						○		72.4	0.1	75	55	
1	(4) 資料に示されたシドニーの緯度と経度を読み取ることができる	○						○		46.9	0.5	70	50	▼
1	(5) 図法の異なる二つの地図から、同じ大陸を読み取ることができる	○						○		78.2	1.1	70	50	◎
2	(1) 熱帯の特徴を示す気温図を読み取ることができる	○						○		59.1	0.8	70	50	
2	(2) 乾燥帯で行われている遊牧を理解している	○						○		66.5	8.7	70	50	
2	(3) 温帯の気候の特徴を理解している	○						○		90.0	0.4	70	50	◎
2	(4) 資料を基に、寒帯の気候区分(ツンドラ気候)の特徴について説明することができる	○						○	○	35.9	8.1	60	40	▼
2	(5) 資料から、サウジアラビアで主に信仰されている宗教がイスラム教であることを読み取ることができる	○						○		83.4	1.2	70	50	◎
3	(1) ヒマラヤ山脈の位置と名称を理解している	○						○		52.5	5.6	75	55	▼
3	(2) 資料から、中国の農業の特徴を読み取ることができる	○						○		73.6	0.4	70	50	◎
3	(3) 中国の経済発展について理解している	○						○		69.7	0.9	70	50	
3	(4) インドで近年、発達している情報通信技術(ICT、IT)関連産業を理解している	○						○		52.6	11.0	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	(5)	資料を基に、インドに外国企業が進出している理由を説明することができる	○								○	○	36.9	16.2	60	40	▼
4	(1)	社会の仕組みの特徴によって時代区分された「古代」を理解している			○					○			46.4	0.7	70	50	▼
4	(2)	飛鳥時代の次の時代が奈良時代であることを理解している			○					○			61.5	4.0	75	55	
4	(3)	「世紀」を使った年代の表し方を理解している			○					○			56.8	4.4	70	50	
4	(4)	イエス・キリストが生まれたとされる年を基準とした年代の表し方が「西暦（西暦年）」であることを理解している			○					○			36.1	21.8	70	50	▼
4	(5)	中国で始まり、「平成」などのように日本で使われている年代の表し方が「年号（元号）」であることを理解している			○					○			58.0	16.9	70	50	
5	(1)①	資料から、古代文明がおこった地域の共通点を読み取ることができる				○				○			87.8	1.1	70	50	◎
5	(1)②	中国文明で使われていた文字が甲骨文字であることを理解している				○				○			57.2	7.3	75	55	
5	(2)①	石を打ち欠いて（打ち砕いて）作った道具が打製石器であることを理解している				○				○			59.7	6.9	75	55	
5	(2)②	資料を基に、海水面が上昇し現在の日本列島が形成された理由を説明することができる				○					○	○	47.4	11.7	60	40	
5	(2)③	資料と弥生時代に争いが多くなったという知識を基に、弥生時代の人々の生活の様子について説明することができる				○					○	○	54.3	9.6	60	40	
6	(1)	平安京に都を移した理由を理解している				○				○			52.5	1.8	70	50	
6	(2)	東北地方の蝦夷の反乱を鎮めるため、征夷大將軍に任命された人物が坂上田村麻呂であることを理解している				○				○			29.5	18.0	70	50	▼
6	(3)	最澄が天台宗を、空海が真言宗を広めたことを理解している				○				○			27.9	24.0	70	50	▼
6	(4)	資料から、藤原氏が力を強めたことを読み取ることができる				○				○			44.9	2.8	65	45	▼
6	(5)	資料を基に、国風文化の内容を説明することができる				○					○	○	44.5	14.7	60	40	

[表5] 中学2年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,943	53.1	10.5	69.0	49.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の諸地域	5	62.6	5.0	71.0	51.0	
	日本の地域構成	5	51.3	6.1	70.0	50.0	
	日本の地域的特色	5	64.9	8.9	69.0	49.0	
	中世	5	42.0	11.3	68.0	48.0	▼
	近世	10	49.0	15.8	68.0	48.0	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	33.5	20.2	57.0	37.0	▼
	②技能	6	61.0	2.7	68.3	48.3	
	③知識・理解	19	55.8	10.4	72.4	52.4	
問題形式	選択式	11	58.3	1.2	70.0	50.0	
	短答式	14	56.1	14.3	72.5	52.5	
	記述式	5	33.5	20.2	57.0	37.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	33.5	20.2	57.0	37.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点	問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	日本の地域的特色	中世	近世						十分達成	おおむね達成	
1	(1) オセアニア州の地形の特徴を理解している	○					○		97.6	1.6	75	55	◎	
1	(2) オーストラリアが、植民地支配をされていたことを理解している	○					○		82.8	4.6	70	50	◎	
1	(3) オーストラリアの特徴を理解している	○					○		39.9	0.6	70	50	▼	
1	(4) 資料から、オーストラリアの人口密度の特徴を読み取ることができる	○					○		69.0	0.6	70	50		
1	(5) オーストラリアで他の国や民族の様々な文化や生活習慣を尊重し、共存を目指す社会(主義)が多文化社会(主義)であることを理解している	○					○		23.8	17.8	70	50	▼	
2	(1) 東京とニューヨークの時差を求めることができる	○					○		45.2	9.5	70	50	▼	
2	(2) 北方領土にある択捉島の位置と名称を理解している	○					○		78.6	0.5	75	55	◎	
2	(3) 領土・領海・領空の範囲(領域)を理解している	○					○		39.8	1.6	70	50	▼	
2	(4) 資料を基に、日本の排他的経済水域の面積が、ブラジルと比べて広い理由を説明することができる	○					○	○	20.7	18.2	60	40	▼	
2	(5) 日本の七地方区分のうち、近畿・中部・関東地方の位置と名称を理解している	○					○		72.3	1.0	75	55		
3	(1) 湾と岬が連続する複雑に入り組んだ海岸がリアス(式)海岸であることを理解している	○					○		86.3	8.5	75	55	◎	
3	(2) 川が山間部から平野に出たところに見られる地形が扇状地であることを理解している	○					○		52.5	11.7	75	55	▼	
3	(3) 地震や川の氾濫などの自然災害による被害を予測し、避難所などを記した地図がハザードマップ(防災マップ)であることを理解している	○					○		77.7	10.4	75	55	◎	
3	(4) 資料から、日本と世界を結ぶ航空路(線)の様子を読み取ることができる	○					○		73.9	1.2	65	45	◎	

設問別集計結果

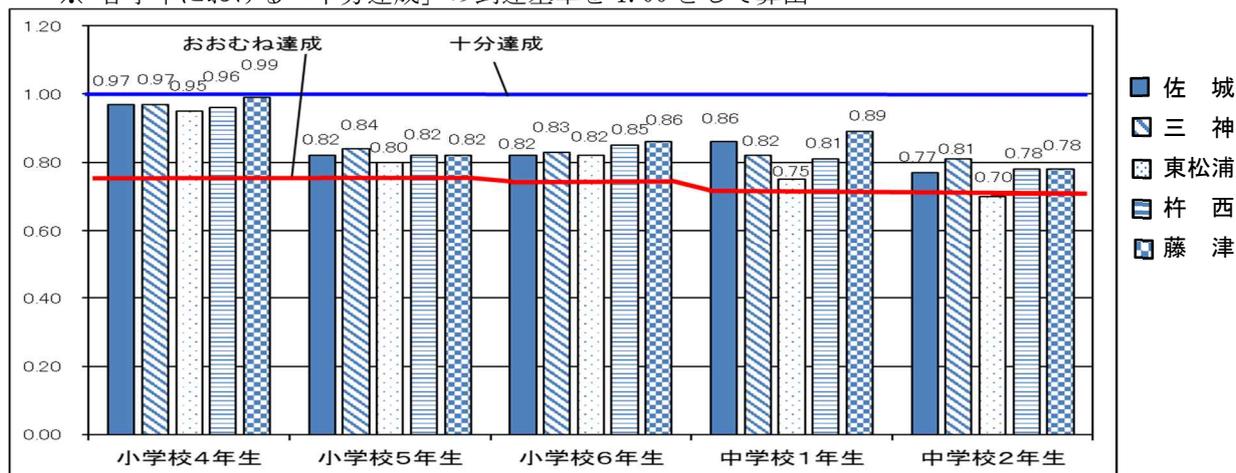
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	中世	近世	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
3	(5)	資料を基に、高速道路の延長による効果を説明することができる	○					○		○	○	33.9	12.8	55	35	▼
4	(1)	平清盛が権力を握ることができた背景について理解している		○					○			40.3	1.5	70	50	▼
4	(2)	鎌倉幕府の仕組みの一つである六波羅探題を理解している		○					○			22.4	23.9	70	50	▼
4	(3)	資料から、幕府軍と元軍の違いを読み取ることができる		○				○	○			71.4	0.8	70	50	◎
4	(4)	応仁の乱後の社会の変化を理解している		○					○			49.6	1.5	70	50	▼
4	(5)	資料を基に、農業生産が高まった理由を説明することができる		○				○		○	○	26.5	28.7	60	40	▼
5	(1)	織田信長が行った商人を招き、座や各地の關所を廃止し、自由な商工業の発展を図った政策が楽市・楽座であることを理解している			○				○			72.0	13.5	75	55	
5	(2)	豊臣秀吉が行った政策の一つが太閤検地（検地）であることを理解している			○				○			54.0	19.1	75	55	▼
5	(3)	刀狩令などにより、武士と農民の身分の区別が明確になったことが兵農分離であることを理解している			○				○			42.4	25.2	70	50	▼
5	(4)	老中という幕府の政治を取り仕切る役職を理解している			○				○			48.5	18.7	70	50	▼
5	(5)	資料から、江戸幕府がどのような仕組みをつくって全国を支配したのかを読み取ることができる			○				○			52.5	1.8	65	45	
6	(1)	資料から、江戸時代の交通網の発達を読み取ることができる			○				○			53.9	2.1	70	50	
6	(2)	資料を基に、江戸時代の大阪が商業の中心地として繁栄した理由を説明することができる			○				○	○	○	40.9	17.6	55	35	
6	(3)	上方で栄えた町人文化が元禄文化であることを理解している			○				○			39.1	14.2	70	50	▼
6	(4)①	松平定信が行った改革が寛政の改革であることを理解している			○				○			41.1	22.0	75	55	▼
6	(4)②	資料を基に、幕府の収入は安定したが、農民の年貢の負担が軽くなったり、重くなったりする理由を説明することができる			○				○	○	○	45.3	23.5	55	35	

#### (4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況は、5学年中4学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校1年生で地域差が最も大きい。また、平成29年度12月調査と比べて小学校5年生と小学校6年生で地域差が縮小し、中学校1年生と中学校2年生で地域差が拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校4年生	社会	H30[12月]	1.00	1.01	0.98	0.99	1.02	0.04
		H29[12月]	1.01	1.01	0.98	0.99	1.02	0.04
小学校5年生	社会	H30[12月]	1.00	1.03	0.98	1.00	1.00	縮 0.05
		H29[12月]	1.00	1.04	0.95	1.00	1.03	0.09
小学校6年生	社会	H30[12月]	0.99	1.00	0.98	1.02	1.03	縮 0.05
		H29[12月]	0.98	1.03	1.00	0.98	1.05	0.07
中学校1年生	社会	H30[12月]	1.05	0.99	0.91	0.98	1.08	▲ 拡 0.17
		H29[12月]	1.00	1.04	0.92	1.02	0.98	▲ 0.12
中学校2年生	社会	H30[12月]	1.00	1.06	0.91	1.01	1.01	▲ 拡 0.15
		H29[12月]	1.01	1.03	0.94	1.01	1.00	0.09

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成29年度[12月調査]より地域差が縮小したことを、「拡」は拡大したことを示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町